

■ 共通テストで英語の民間試験導入が、まさに土壇場キャンセルという形で見送られたことは驚き以外の何物でもない。

導入にあたっての様々な問題点は、従来から様々なところで指摘されてきていたにもかかわらず、それを全く知らなかったなどと言う大臣の鉄面皮な無責任さにはあきれ果てる。

もし、文科大臣の「身の丈発言」がなければ、大臣の相次ぐ無様な辞任がなければ、今でも民間試験導入へのステップが着々と進められ、それによって受験生は過度な経済負担を強いられ、公正ではない選抜材料によって合否を決められようとしていたはずだ。

■ 併せて導入されようとしている国語と数学の記述試験についても、従来から懸念されているその採点の公正さの問題にスポットが当たりつつある。とはいえ、今のところ文科省は実施の方向から舵を取り直す気はなさそうだ。

■ 国語ではマークシート部分で 200 点；それに加えて記述部分で A～E の 5 段階評価が行われる。

数学の「数学 I・A」においては、100 点中の 15 点が記述式問題への配点となる。記述式問題は数学 I 分野においてのみ出題され、配点 5 点の問題が 3 題出題される。数学 I が 60 点、数学 A が 40 点であるから、**数学 I の配点の何と 1/4 が記述式問題に充てられる。**

■ 記述式問題の採点はその採点基準の設定やすり合わせが非常に難しく、短期間で数 10 万人分の採点を間違いなく行うのは困難である。まして専門家でもない学生アルバイトによって遺漏なく進められるとは到底思えない（専門家集団であっても難しいだろう）。

採点ミスを防ぐために「3 回以上採点する」という報道に、「それならば大丈夫か」と思う人も多いだろうが、**4 回目の採点でミスが見つかるということが珍しくないことは、実際の高校入試の採点業務で度々経験済みだ。**

さらに、採点業務を円滑に進めるために、事前に採点業者に問題・解答を提供するという、問題漏洩の危険性が高い信じられないことが行われようとしている。

この「雑感」でも再三述べているように「**記述式問題は各大学が各大学の責任で行えばよい**」。大学ごとであれば、採点基準の設定やすり合わせもそれ程難しくはないだろう。

■ これまでの試行テスト（プレテスト）において、記述式問題の無答率の高さ、正答率の低さ、自己採点との差の大きさなどが問題点として浮かび上がってきている。

正答率の低さに対応するため（無答率にも関係していくが）問題を易しくし、「問題解決の方略等を端的な短い文で記述する問題は出題しないこと」という改善を図るといふ。

例えば、2018 年 11 月に行われた試行テスト（2 回目になる）の数学 I・A 第 1 問 [1] (I) の記述式問題は

「1 のみを要素にもつ集合は集合 A の部分集合である」という命題を、記号を用いて表せ。

であり、正答例は「 $\{1\} \subset A$ 」である。

このように平易な（しかも、内容的に余り意味があるとは思えない）問題を 2 回目で出題したが、これが配点 5 点の設問である！ [1 回目の試行テストでは考えられないような平易な問題である ※]

マークシート部分の配点は各解答で 1 点～4 点であり、難易度の高い設問に 4 点といった高配点が与えられているのがこれまでの一般である。正答率を上げる、無答率を下げるためといった本質から離れた方向の恐ろしく平易な問題を出題し、それに 15 点もの配点を与えることに、他の問題の配点との整合性はとれるのだろうか。

※ とは言え、この問題の正答率は驚きの 5.8%；誤答率 76.9%；無答率 17.3% という悲惨な結果であり、開いた口が塞がらない。

■ これまでに指摘してきたことだが [http://www10.plala.or.jp/mondai/column/kijutu 等]、**数学では部分点がない**。各 5 点の配点について、5 点か 0 点かの、All or nothing である。国語で段階評価という部分点があることとの整合性はどうか。記述式全体で国語が 5 段階、数学は 0 点、5 点、10 点、15 点という 4 段階と言えなくもないが、国語がマークシート部分とは別建てになっているのに対して、数学はマークシート部分との合計になるので、数学は点数だけでは記述式部分、マークシート部分の個々の点数は見えない仕組みだ。

■ 数学で部分点を採用したら、その採点が更に煩雑化し、時間もかかり採点基準の設定やすり合わせが困難になることは当然である。しかし、そういった技術的な困難さが、受験生の学力を正確に評価することから遠ざかった得点にしてしまっただけで良いわけではない。

一定の部分点を与えることにすれば、正答率（得点率というべきか）が上がることはもちろん、無答率も激減するはずだ。

■ ただ、繰り返し述べるが、このような困難があるのだから、「**記述式問題は各大学が各大学の責任で行えばよい**」のである。

